

平成 21 年 10 月 27 日

御所市長 東 川 裕 様

御所駅前活性化検討委員会
会 長 森 田 定 和

提 言 書

御所駅前活性化検討委員会において、これまで御所駅前の活性化を図るための協議を行ってまいりましたが、次のとおり当委員会として方策をまとめましたので、提言いたします。

提 言 骨 子

- 1．来訪者に対してPRを行い、近鉄御所駅前から商店街を経て、御所まちに人の流れを生み出すために、駅前商店街のアーチ型看板等に“おもてなしの言葉”を表示し、ウェルカムゲートとして活用することを提言します。
- 2．駅前的美観を図り、駅利用者に憩える場を提供するために、既設の巨大な広告入りのベンチ、また材質、規格が不揃いなベンチを撤去し、広告無し又は小スペースの広告入りのベンチ、若しくは木製等でできた統一感のあるベンチに取り替えることを提言します。
- 3．駅前という来訪者や利用者の多い立地を生かし、御所市をPRするために、現在閉鎖している駅売店を活用することを提言します。
- 4．駅前の景観のイメージアップを図るため、駅前の老朽化した建物に対し、所有者と改修等の調整を行い、有効活用することを提言します。
- 5．『御所市の顔』として駅前のイメージアップを図るため、市の標語タワー等については、駅前の広場スペースに合わせて縮小するか、又は駅前以外の場所に移設することを提言します。

御所駅前のにぎわいについての提言

近鉄御所駅前には国道24号線を隔てて商栄会商店街に面しており、さらに末広町商店街、新地商店街、御国通り商店街へと続く商店街地区の入り口になっています。かつてにぎわいのあった商店街地区は、買い物客の減少により閉店によるシャッターが目立つ状況です。昔との大きな違いが人通りの数であることから、奈良県内では2番目に古い歴史のある新地商店街を含め、趣があり、いい雰囲気の残る商店街地区の魅力を生かしながら、商店街地区に隣接する御所まちを来訪者にPRすることにより、人の流れを生み出し、人通りの増加によるにぎわいに繋げていくことが必要と考えます。

そこで、近鉄御所駅前の商栄会商店街のアーチ型看板等に“おもてなしの言葉”を表示してウェルカムゲートとして活用することを提言します。

例えば『ようこそ御所まちへ』といった文言をウェルカムゲートに表示すれば、『ようこそ』は来訪者を迎えるおもてなしの言葉になるとともに、駅前から商店街地区に足を踏み入れるきっかけの言葉となります。また『御所まちへ』は駅前から商店街を歩いて御所まちに導く言葉になり、来訪者、市民を問わず、伝統的建造物のある地区として、観光地としての周知、PRになります。さらに、駅前、商店街から御所まちに至るルートに共通したビューポイントとなるもの、例えば御所まちの祭りのシンボルである『ススキ提灯』をヒントにした提灯のレプリカを飾れば、効果的に人を導くことができるのではないかと思います。

当委員会では、駅前から御所まちへと人が流れる中で、商店街地区の人通りが増加し、商店街が活性化することで、駅前のにぎわいにつながると考えます。

御所駅前の居心地についての提言

御所駅前を駅利用者や来訪者にとっての心地よさという視点から捉えると、次のような問題点があります。

- ・ 駅前が雑然として美観がよくない。
- ・ 駅前にあるベンチは破損したものが多く、また、大きな広告を掲載したベンチが置かれている。
- ・ 駅前に老朽化した建物がある。
- ・ 駅周辺で食事できる飲食店や喫茶店がない。
- ・ 駅売店が閉まっている。

これらの問題は、駅利用者、来訪者のみならず多くの市民が認識している

ものと思われます。

そこで、ベンチについては、駅前に置いてあるベンチの設置者を確認したうえで、老朽化したり、破損しているものはもちろんのこと、大きな企業広告入りのベンチの撤去を実施してもらい、その後、企業名を入れないか、又は小さな企業広告入りのベンチで、統一感のある、雰囲気のあるベンチ（例えば丸太などの木材を使用したベンチ）に取り替えることを提言します。

次に、来訪者に対する観光PRの強化と利便性を高めるため、例えば、観光案内、特産品紹介、観光写真やパネルの展示等を行うサロンのような利用も含めて、現在閉鎖している駅売店を活用することを提言します。

最後に、駅前の清掃、美化活動は日常的なものであり、鉄道・バス・タクシー事業者や地域住民に協力をお願いするとしても、駅前の老朽化した建物によって生じる景観悪化は『御所市の顔』である駅前にとって、大きな問題です。

当委員会では基本的にはソフト面を中心に協議を進めてきたところですが、駅前の老朽化した建物については、所有者とも話し合ってもらい、その建物の改修及び有効活用を行うことを提言します。

その活用手段として、フルシーズン活動できる観光情報発信の拠点、特産品紹介・販売の拠点、飲食・喫茶ができる憩いの拠点を想定しています。

心地よい場所、憩う場所を設定するためには、多少予算が必要になってきますが、実施できるところから計画的に実施し、それにより御所の玄関としての駅前が少しでも変わるならば、市民も変化を感じ、まちづくりへの関心と協力の気持ちが高まるはずで、また、憩いの場所や景観美化はすべて居心地に関係しており、これらは“おもてなし”にもつながっていきます。また、観光客にとって心地よいということは、市民にとっても心地よいということです。そうした意味で、心地よさを生み出すという提言は非常に重要です。

御所駅前整備についての提言

近鉄御所駅前は南北に細長く、改札前に小さな広場スペースがあるだけです。現在、その広場に標語タワー1つ、タワー風標語看板1つがあり、その他にも警察派出所の上部に標語看板がかかっています。標語の役割としては、より大勢の人の目に触れ、啓発するものですから、現在の場所に設置されたことは理解できます。しかしながら、小さな広場に標語タワー等を複数設置するのは、あまりにも目立ちすぎて、駅利用者には圧迫感を与

えていると思われます。また標語タワーが駅改札を出る来訪者の目に直ちに飛び込むのも、ビジュアル的な観点から御所市のイメージにとって好ましいとは思えません。

そこで、駅前の良好な景観づくりという視点から、市の標語タワー等については、駅前の広場スペースに合わせて縮小するか、又は駅前以外の場所に移設するよう提言します。

当委員会としては、駅前というのは公共スペースの中でも『まちの顔』となる場所ですので、今後は御所駅前を『御所市の顔』となるような駅前整備を図ってもらいたいと考えています。そのために、まずはすっきりとした駅前になるよう整備を図っていくことが必要であると考えます。

まとめ

御所駅前及びその周辺の活性化という課題を検討する中で、現況をこのまま放置することのできない問題、現況から新たな一歩を踏み出すことにより現状を変えなければならない問題等に直面しました。

当委員会では、『御所市の顔』となる御所駅前の活性化につながるこの提言は市行政が主体性を持って、その実現に向けて積極的かつ早期に取り組んでいただきたい。

御所駅前活性化検討委員会

経緯

- 第1回 平成21年 1月29日 「御所駅前の現状について」
- 第2回 平成21年 3月26日 「御所駅前の問題点と課題について」
- 第3回 平成21年 5月 7日 「御所駅前の将来像について」
- 第4回 平成21年 7月 3日 「御所駅前の活性化方策について」
- 第5回 平成21年 8月 6日 「御所駅前活性化方策案の検討について」
- 第6回 平成21年 9月 9日 「提言書案の作成について」
- 第7回 平成21年10月27日 「提言書のとりまとめ」

委員

役職は委員就任当時

- 会 長 森田 定和 (市民公募)
- 副会長 中島 昭人 (商栄会代表)
- 委 員 赤坂 勲 (御所市観光協会会長)
- 委 員 吉田 圭一郎 (御所市商工会副会長)
- 委 員 細川 秀雄 (新地商店街会長)
- 委 員 三並 義明 (大広町自治会長)
- 委 員 永田 雅裕 (末広町自治会長)
- 委 員 東浦 真也 (市民公募)
- 委 員 堀川 善弘 (市民公募)
- 委 員 吉村 考子 (市民公募)

アドバイザー

- 伊藤 忠通 (奈良県立大学地域創造学部教授)